

自己指導能力を育成する発達支持的生徒指導 ～いじめの未然防止に向けて～

令和 7 年 2 月
東京都教育委員会

I 主題設定の理由

1 いじめに関する背景

- (1) 令和 5 年度の都内公立学校におけるいじめの認知件数は、69,752 件（令和 4 年度 66,314 件）であり、前年度に比べ 3,438 件増加し、過去最多となった。（「令和 5 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省））
- (2) 令和 5 年度の都内公立学校におけるいじめの重大事態の発生件数は 107 件（令和 4 年度 48 件）であり、前年度に比べ 59 件増加し、過去最多となった。（同上）
- (3) 平成 25 年に「いじめ防止対策推進法」が施行されて以降、「いじめの防止等のための基本的な方針」、「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」等が作成され、子供たちを取り巻く環境が大きく変化中、いじめの認知件数やいじめの重大事態の発生件数の増加傾向が続く等、極めて憂慮すべき状況にある。

2 生徒指導提要の改訂（文部科学省 令和 4 年 12 月）

- (1) 社会的背景に加え、暴力行為の発生件数、不登校児童・生徒数、児童・生徒の自殺者数が増加傾向にあること等を踏まえ、これまでの生徒指導の概念・取組の方向性等を再構築し、今日的な状況変化に対応するため、令和 4 年 12 月に生徒指導提要が 12 年ぶりに改訂された。
- (2) 生徒指導提要（文部科学省 令和 4 年 12 月）では、児童・生徒一人一人が生徒指導の目的を達成するために身に付けるべき「自己指導能力」について整理され、児童・生徒の「自己指導能力」の獲得を支える際に留意する 4 視点が示された。また、教職員は、発達支持的生徒指導による、児童・生徒への働きかけが重要であることも示された。
- (3) 都内公立学校では、いじめの未然防止に向けた取組について、積極的な教員から消極的な教員まで様々な状況にある。その中で、生徒指導提要（文部科学省 令和 4 年 12 月）は、いじめの未然防止に向けた取組を含む生徒指導の基本的な考え方や具体的な対応についてまとめた基本指針となっている。

II 研究の目的

生徒指導提要（文部科学省 令和 4 年 12 月）の基本的な方向性に即して、都内公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校におけるいじめの未然防止に向けた実践プログラムの研究・開発を行い、その効果を検証する。

III 研究の方法

1 研究仮説

全ての教育活動において、児童・生徒が発達支持的生徒指導を通して自己指導能力を身に付けることで、何が正しく何が間違っているかを自分自身で考えることができるようになり、いじめの未然防止を行うことができるだろう。

2 自己指導能力の獲得に向けて

以下、（ ）内のページは、生徒指導提要（文部科学省 令和 4 年 12 月）を指す。

(1) 児童・生徒 自己指導能力獲得に向けたプロセス

生徒指導の目的を達成するためには、児童生徒一人一人が自己指導能力を身に付けることが重要です。児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「自己指導能力」を獲得することが目指されます。

（P13 第 1 章生徒指導の基礎）

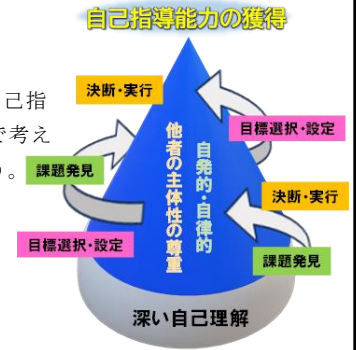


図 1 自己指導能力獲得に向けたプロセス

課題発見 目標選択・設定 決断・実行 のサイクルが重要

(2) 教員 発達支持的生徒指導と生徒指導の実践上の視点

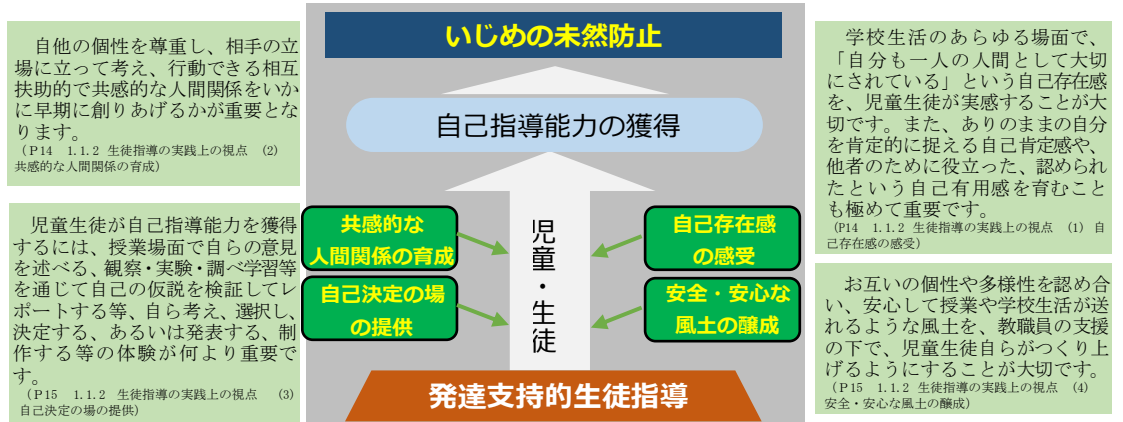


図 2 自己指導能力の獲得に向けた取組

発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。発達支持的生徒指導では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切になります。（P20 1.2.2 発達支持的生徒指導）

全ての児童・生徒を対象とした常態的・先行的（プロアクティブ）な生徒指導として、**教育活動のあらゆる場面**で、**これらの視点を取り入れながら**児童・生徒の成長・発達を支えていくことが求められる。

3 いじめの未然防止に向けた、児童・生徒の自己指導能力を育成するための実践プログラムの研究開発

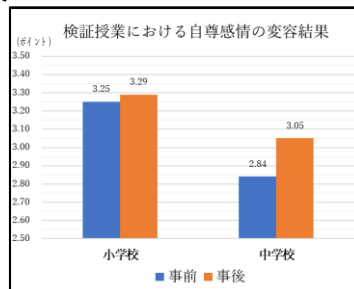
「発達支持的生徒指導」による働きかけ、「自己指導能力」の育成に向けた取組の概要

【 】：生徒指導の実践上の視点、 □：取組、※：活用場面

- (1) 【自己存在感の感受】
 - **サンクスカード** ※常時活動・行事の活動後
児童・生徒が友達に発したよい声掛けや言いなどを見つけたときに、カードに記入して帰りの会などで紹介しながら渡す。
 - **グッドノート** ※常時活動
ノートによい気付きを書いたり、次の学習につながるような振り返りを書いていたりしたものを教室後方に掲示する。自分のノートがみんなの模範になったことで自己肯定感が高まる。
- (2) 【共感的な人間関係の育成】
 - **輪番制で行う一人一役の当番活動** ※常時活動
学校生活を送る上で必要な仕事を学級会で話し合って決めた。週替わりで一人一人に違った役を割り振り、責任感をもって行うことで、児童・生徒の自己有用感を高める。
- (3) 【自己決定の場の提供】
 - **集団宿泊的行事における事前・事後指導** ※行事の事前・事後
2泊3日の宿泊行事において、係の役割に対して、児童・生徒が主体的に声を掛けられるよう、事前の係活動で係ごとのめあてを決めて活動した。自然体験教室中も、自分の活動について振り返りを行い、事後指導の際に今後の学校生活へ生かすことができるようにする。
 - **職場体験を通して、自分が身に付けるべきことを整理できるワークシート** ※事後指導
職場体験の経験から理想の社会人像を見だし、そのために身に付けるべきことをワークシートにまとめることにより、自ら考え、選択し、決定する力を育む。
自己決定が苦手な生徒もワークシートを活用することや、グループでの話し合いにより、自らの目指すべき姿を確認することができる。
- (4) 【安心・安全な風土の醸成】
 - **話を聞く姿勢づくり** ※常時活動
友達の発表を聞く際や先生の指示を聞く際に、相手を見て話を聞くことを徹底する。
 - **デジタルを活用した発表** ※話し合ったことや意見の共有
A I テキストマイニングによる分析を活用し、発表した内容を掲示し共有する。
 - ① 事前に授業支援クラウドを活用したアンケートで理想の社会人像を回答させ、授業の導入でA I テキストマイニングに回答を表示する。
 - ② 職場体験の経験を学校生活でどのように生かしていくか、児童・生徒が主体的に考えたことを、A I テキストマイニングで表示し共有することで、互いを支え合い認め合う雰囲気を具体化させ、学級集団が生徒の「心の居場所」になるよう導く。

4 いじめの未然防止に向けた実践プログラムの効果検証結果

いじめの未然防止に向けた実践プログラムの効果検証を行う方法として、「自尊感情測定尺度【東京都版】」（東京都教職員研修センター 平成22年度）を活用した。ここで示されている3点の要因と生徒指導提要（令和4年12月）に示されている自己指導能力を獲得するための4視点との共通点が多く、効果検証に適していると考えたためである。「いじめの未然防止に向けた実践プログラム」や教育活動のあらゆる場面で生徒指導実践上の視点を取り入れる前と後で児童・生徒の変容について調査、分析を行った。その結果、右の図の通り、小学校、中学校ともに数値の上昇が見られるなど、開発した本実践プログラムの有効性が確認できた。



IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 生徒指導提要（改訂版）が示す生徒指導の在り方について明らかにすることで、これまで各学校で実践されてきたプログラムや日常の教育活動について、「発達支持的生徒指導」の視点から整理し、教育的意義を再確認することができた。
- (2) 検証授業やその後の研究協議を通して、「生徒指導の実践上の視点」から具体的な取組を集約し、その有効性についても効果検証することができた。
- (3) 生徒指導実践上の視点を取り入れた「いじめの未然防止実践プログラム」を校種ごとに開発することができた。

2 課題及び今後に向けて

- (1) 発達支持的生徒指導の取組や生徒指導実践上の視点をあらゆる教育活動で取り入れることができるよう、事例の紹介を通して、より多くの教員に周知していく必要がある。
- (2) 今後、「困難課題対応的生徒指導」や「課題予防的生徒指導」についても研究を行い、いじめ問題の解決に向けた実践プログラムを開発していく必要がある。

○ 委員名簿

清瀬市立清瀬第六小学校	校長	長友 慎吾
品川区立鈴ヶ森中学校	主幹教諭	今井 正人
世田谷区立代田小学校	主任教諭	小山 雅人
北区立谷端小学校	主幹教諭	高池 亮輔
町田市立武蔵岡中学校	主任教諭	エマール フランソワ夏樹
多摩市立多摩中学校	主幹教諭	榊 俊一郎
小笠原村立小笠原中学校	主幹教諭	柴山 暁人
東京都立葛飾商業高等学校	主幹教諭	益本 光章
東京都立東久留米特別支援学校	主幹教諭	石川 智史

【担当】

東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 金子 将之
指導主事 菅原 直人